

# 高島藤樹会

(題字は、竹脇雲卿先生によるものです)

発行  
NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224  
滋賀県高島市安曇川町上小川1225-1  
藤樹書院・良知館内  
電話・FAX 0740 (32) 4156

## 藤樹さんに親しく

山本 義雄

安曇川町政五十周年記念事業で映画『中江藤樹』が企画されて、上小川区役員として実行委員となりました。ロケ用生家屋根葺藁提供協力五名、屋根藁用藁の下作業奉仕五名、エキストラ二十名等、製作支援などを行いました。旧教科書で滋賀県での八十八回と断トツに取り上げられていたのに、現在は無い為、藤樹先生を知っている人が減少、映画を機会にもっと近江聖人を伝承したいと思つて藤樹書院のボランティアと関わることになりました。

平成十八年から理事となり、平成二十四年から国の組織改革の中、公益財団法人に許可となり、六年目を迎えています。書院では毎年三回の祭典を行います。一月十一日は鏡開きといつて、



藤樹先生ご在世から講書始めの儀式に始まります。この日は、門人やその子孫、篤学の士等が集まって先生の著書を読んだり、孔孟の書を研究した後、元旦にお供えした鏡餅を同志が頂戴したことから始まったようです。常省先生の書翰に「講堂春之祭礼も何も出合被成候而執行被成……」とあり、先生を慕う人によって連綿と続けられている行事です。七月二十三日は常省祭で、中江家を継いだ三男弥三郎の命日行事で孝経を拝誦します。九月二十五日は儒式にのっとった儒式祭典の行事です。藤樹書院では、良知館で有志六名と地元有志の女性八名が、年中無休で朝九時から四時半まで来訪者の案内、接待をしています。『万民ごとごとく天地の子なればわれも人も人間かたちあるほどのものはみな兄弟なり』と近隣の村人にも学問や人の道を教えた、心の故郷藤樹書院です。全国各地から来られた人にお茶を勧めながら会話をし、藤樹先生の理解を深めて戴くと共に、来訪者に心温まる一時になるように、心の故郷づくりをめざしています。先日、「どちらからと尋ねた時、「熊本より」と答えられ、中江藤樹のふるさとを訪ねたかった思いが叶い実現したようです。そこで参拝録より過去三年間の状況を調べてみました。二十六年は四十五、二十七年は四十一、二十八

年は三十六の都道府県からで、三年間では全国の各地から訪問があったことになりました。年間六千人前後ですが近江聖人として、又、藤樹先生を学者としてより、有徳の人格者として敬仰されたということで、地元では、「藤樹さん」と人々に親しまれています。

佐藤一斎が画像賛で「……尚見士民敦礼郷、入彊不問織君郷……」とあり、それに恥じない、地域の奉仕団体と共に区民が心の通う里づくりをテーマに、静かなたはずまいと藤樹先生の教えが拡まる事を願っています。



史跡 藤樹書院址